

魅力発信！えひめ農業NOW

令和5年1月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、1月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

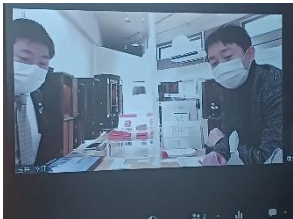

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>



目次


目次	1
1月のトピックス5選	3
自家産米加工品の更なる販路を開拓	3
取引拡大へ、食の大使館シェフが農園を訪問	3
愛媛大学留学生との意見交換会	4
宇和島就農支援システムでの支援により就農希望者の農業研修がスタート	4
加工用青ねぎの生産者懇談会を開催	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
「経営開始・準備支援研修会」を開催	6
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
サル用大型捕獲おりの導入に向け、運営組織を結成！	7
■今治支局 地域農業育成室	7
「甘平」の実証ほ(堆肥試験)の調査を実施	7
波方地区において女性向け農作業安全講習会を開催	8
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	8
かんきつの経営安定を目指し視察研修を実施	8
■今治支局 産地戦略推進室	9
ラナンキュラスのLED電照栽培を開始	9
醸造用ぶどう栽培講習会を開催	9
■中予地方局 地域農業育成室	10
いちご環境制御技術勉強会を開催	10
JA研修生の自家経営の記帳技術習得を図る	10
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	11
サラリーマン等向けに就農相談会	11
一次産業女子がSNSの活用術を学ぶ	11
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	12
久万高原農業を考える研究集会が開催	12
雑穀を使用した郷土料理創作の撮影を実施	12
ピーマン収量向上に向け病害虫診断方法を講習	13
ふるさと保全計画(久万高原町直瀬・大寄地区)策定に向けて	13
■中予地方局 産地戦略推進室	14
「甘平」実証ほの収穫等を実施	14
「さくらひめ」鉢物の3~4月出荷に向け、生育は順調	14
■南予地方局 地域農業育成室	15



広見川の景観を守る「自然環境米」の販売開始	15
加工用びわ園の安定生産を目指し排水改善	15
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	16
花粉用キウイフルーツの剪定講習会を開催	16
南予地域の若手職員によるオリジナル研修会「にゃんよアグリ塾」を開催!	16
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	17
南宇和高校生が「河内晩柑」のプロジェクト研究成果を報告	17
米粉を活用したパンづくりに挑戦	17
■南予地方局 産地戦略推進室	18
高校生に河内晩柑の加工品づくりを指導	18
道の駅みまで「寒じめ あまおとめ」を販売	18
■八幡浜支局 地域農業育成室	19
収穫アルバイトの受入体制が充実	19
AI 選果機を管内初導入・セミナーも企画	19
首都圏での就農相談及び「東大みかん愛好会」との活動協議	20
新規就農者の経営安定に向けて	20
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	21
一次産業女子グループの積極的な活動を支援	21
直売所出荷者を対象に春夏野菜の栽培と農作業安全について講習	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	22
IPMによるいちごのハダニ対策を周知	22
新規就農者等の経営管理能力の向上を目指して	22
■八幡浜支局 産地戦略推進室	23
令和4年産「甘平」を台湾に輸出	23
■農産園芸課 高度普及推進グループ	23
第2回作物調査研究会を開催	23


1月のトピックス5選

標 題	自家産米加工品の更なる販路を開拓		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年1月24日	場所	月心会館（松山市）	
指導対象	(株) SOU・KOU Factory	連携機関	6次産業化サポートセンター	
普及指導内容	○6次産業化による米加工品の販路拡大を志向する当法人と、国事業により派遣されたプランナーとの営業をコーディネートし、当法人が企画・作成した葬祭返礼品のパッケージデザイン案をもとに、商談を行った。			
結果と今後	○葬祭業者からは、単価設定やパッケージデザインの修正を求める意見があったことから、プランナー支援のもと、他県での先進事例の調査やデザイン会社との協議を経て、再度当法人に提案することとした。 ○なお、昨年9～10月に行った石鎚山サービスエリア運営会社への営業活動支援により、同社において米菓子（ぱん豆）の販売を開始しており、当室の取組みが販路拡大につながっている。			
				<p>左：葬祭業者担当者への営業 右：試作した返礼品用パッケージ</p>

標 題	取引拡大へ、食の大使館シェフが農園を訪問		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年1月11日	場所	今治市吉海町	
指導対象	—	連携機関	ブランド戦略課	
普及指導内容	○えひめ食の大使館認定店である大阪府のイタリアン飲食店「トラットリア・イル・フィオレット」のオーナーシェフをオリーブ園地に招くとともに、生産者グループとの意見交換を行った。 ○同店では、当室の店舗訪問を機に今治産オリーブオイルの取り扱いが始まっており、シェフの「実際の園地や搾油の工程等を知りたい」との意向から実現した。			
結果と今後	○シェフからは、「園地を見て生産者と話したことで思い入れが強くなった」と取引の継続、拡大の意向があった。 ○更に、「大三島のワインを1タル購入し、お店オリジナルのワインを作りたい」との要望もあり、地元ワイナリー関係者と取引条件等について協議することになった。 ○現在、当室が営業活動を行った関西3店からも視察の要望を受けており、今後も産地と実需者のマッチングを継続し、しまなみ産農産加工品の利用拡大を進める。			
				
シェフのオリーブ園地訪問		ワイン購入要望の説明		関西飲食店での営業活動



標 題	愛媛大学留学生との意見交換会		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年1月26日	場所	愛媛県生活文化センター	
指導対象	砥部町青年農業者協議会（5人） 愛媛大学留学生（5人）	連携 機関	愛媛大学社会共創学部、砥部町	
普及指導 内容	<p>○青年農業者協議会員のかんきつに対する知識や理解を深めるとともに、愛媛のかんきつの魅力や強み、今後の生産方針等を検討するため、愛媛大学の海外留学生を招き、青年農業者が栽培しているかんきつ5品種（「はれひめ」、「せとか」、「はるみ」、「甘平」、「いよかん」）の試食と意見交換を実施した。</p> <p>○海外での果実の消費スタイルや嗜好等について意見を交わした。</p>			
結果と今後	<p>○会員らは、温暖な立地条件を生かした高品質果実生産が可能であることや温州みかんだけでなく年間を通じて多様な品種を供給できる点が愛媛のかんきつ生産の強みであると再認識することができた。</p> <p>○試食した果実は好評であったことから、会員らは、今後の生産に更なる意欲をみせるとともに、日本と海外のかんきつに対する商品イメージの違いを知ることができ、海外輸出も視野に入れた今後の生産・販売方針を考える良い機会となった。</p>			
			<p>かんきつの試食と意見交換</p>	




標 題	宇和島就農支援システムでの支援により就農希望者の農業研修がスタート		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年1月6日、9日、19日	場所	宇和島市吉田支所及び現地	
指導対象	研修生1人及び受入農家6戸	連携 機関	宇和島市役所、JA えひめ南	
普及指導 内容	<p>○「宇和島就農支援システム」で受け入れた県外からの新規参入者1人が、9月下旬～12月上旬にかけて、地域や栽培品目が異なる受入農家6戸で2週間毎の就農体験を実施。</p> <p>○就農体験終了後に新規参入者への面談や受入れ農家の意向を確認し、双方合意の上マッチングが完了し、9日から農業研修を開始した。</p> <p>○また19日には、双方に対して、移住関連の宇和島市単独事業や国補事業等を説明し、資金面でも研修がスムーズに実施できるよう支援した。</p>			
結果と今後	<p>○今後は雇用契約を締結し、4カ月程度の「お試し研修期間」を経て、国補事業等を活用しながら最長4年間の研修を実施予定。また、住居についても受入農家からの紹介により目途がついており、今後契約・入居を行う予定。</p> <p>○今後は、8月から稼働を始めた「宇和島就農支援システム」の支援方法等を更に改善し、本件をモデルとして新規就農者の増加と地域農業の維持に繋げる。</p>			
			<p>左：受入農家と体験者の状況確認</p>	
			<p>右：支援センターでの打ち合わせ</p>	

標 題	加工用青ねぎの生産者懇談会を開催		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 八幡浜支局西予農業指導班
年月日	令和5年1月27日	場所	西予市	
指導対象	加工用青ねぎ生産者（10人）	連携機関	（株）百姓百品村	
普及指導内容	<p>○加工用青ねぎの生産・技術情報を共有するため、地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」の重点対象者含む生産者に対し、生産者懇談会を開催した。</p> <p>○懇談会では、土壌診断に基づく施肥改善等の6つの実証結果の報告やアシストスーツに関する情報提供を実施。また、（株）百姓百品村からは生産販売状況や出荷基準の見直し等について説明があった。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、抽苔への対応や出荷基準見直しに伴う栽培上の懸念等について意見が出る等、貴重な情報交換の場となった。また、アシストスーツへの質問から、軽労化への関心の高さもうかがえた。</p> <p>○今後も生産販売状況を踏まえた技術実証や、販売活動等を通して産地化を支援していく。</p>			
		<p>技術実証結果の報告</p>		

えひめ農業NOW

標 題	「経営開始・準備支援研修会」を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年1月17日	場 所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	就農初期農業者・新規就農者等 (44人)	連携 機関	日本政策金融公庫、新居浜市、西条市、JAえひめ未来、JA周桑	
普及指導 内容	<p>○就農に向けた経営計画の策定に必要な基礎知識や、制度資金に関する理解を深めることを目的に研修会を開催し、関係機関等併せて44人が出席した。</p> <p>○当室から「認定新規就農者制度」について認定新規就農者の優遇措置や青年等就農計画の作成方法を、また、日本政策金融公庫からは「事業計画推進のための資金活用」について説明した。市の担当者からは、自治体ごとの認定新規就農者制度の特徴について情報提供を行った。</p> <p>○その後、関係機関ごとにブースを設けて、個別相談会を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「認定新規就農者になるメリットが理解できた」「補助金や融資を受けるためだけでなく、自らの経営の進む方向がぶれないよう事業計画を立てる重要性が分かった」との感想が聞けた。</p> <p>○研修会終了後、希望する認定の時期や、青年等就農支援資金の借入れ希望のアンケートを実施。結果は関係機関で情報共有し、認定新規就農者への認定や、制度資金の借入れ等がスムーズに行えるよう関係機関が一体となって支援していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>日本政策金融公庫による講演</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>認定新規就農者制度について</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>個別相談会</p> </div> </div>				

標 題	サル用大型捕獲おりの導入に向け、運営組織を結成！		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年1月21日	場所	四国中央市土居町上野（本郷集会所）	
指導対象	土居町上野地区生産者（12人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○サル用大型捕獲おりを2月に導入予定の当地区で、おり運用の主体となる組織づくりを指導してきた結果、1月21日、有害鳥獣捕獲グループ「土居町上野地区本郷作物愛護グループ」が正式に発足した。</p> <p>○同グループは12人で構成。当日は、これまで主体的に取り組んできたリーダーを代表に定めるなど規約が承認されたのち、当班から実際のカメラ映像等を用いた今後の鳥獣害対策にかかる情報提供を行った。</p>			
結果と今後	<p>○今後の鳥獣害対策は当グループが中心となって活動し、地域の最重要課題であるサルの被害軽減に寄与することが期待される。</p> <p>○先行地域である土居町天満地区との連携も見据え、有効な捕獲技術やノウハウ等を共有し、地域全体で効果的な鳥獣害対策に取り組む環境づくりを支援していく。</p>			
<p>【サル用大型捕獲おり（地獄おり）】 サルを群れごと捕獲することが可能な大型の囲いおり。一度入ると出られない、いわゆる地獄構造となっている。当地区では令和5年2月に市事業で設置予定。</p>		 <p>※完成イメージ</p>	 <p>組織化で鳥獣害対策に拍車を</p>	

標 題	「甘平」の実証ほ（堆肥試験）の調査を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年1月31日	場所	今治市菊間町	
指導対象	「甘平」生産者（2人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○「甘平」の裂果対策実証ほにおいて、7月に実施した堆肥施用による発根効果の確認を行った。</p> <p>○堆肥施用により、根域拡大と細根の発根促進を図り、土壌の安定した水分維持を徹底することで裂果軽減につながることを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○堆肥施用による十分な発根効果が確認できたことから、施用箇所を増やして継続して調査を行う。</p> <p>○調査結果や裂果対策技術についてはJA等と連携し、生産者に周知することで、「甘平」の裂果軽減及び連年安定生産に努める。</p>			
 <p>堆肥の施用効果について説明</p>		 <p>堆肥施用前の根</p>	 <p>施用後の根</p>	

標 題	波方地区において女性向け農作業安全講習会を開催		機関名	今治市局地域農業育成室
年月日	令和5年1月31日	場所	今治市波方地区	
指導対象	波方女性農業大学参加者（13人）	連携機関	今治市役所波方支所	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○農作業事故防止に向けた意識啓発を図るため、波方女性農業大学参加者を対象とした農作業安全講習会を開催。 ○当室から、刈払機の回転刃による事故を防止する保護カバーの取り付けや作業後のメンテナンス方法について説明した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者のうち約3分の1は刈払機を使用した経験があるものの、メンテナンスはしたことがなく、「刈払機の内部をはじめて見て清掃方法を知ることができた」と語った。 ○参加者から、「刈払機の点検を怠るとどんな影響があるのか」などの質問があり、活発な意見交換があった。 			



左：作業後のメンテナンスを説明
右：刈払機へのグリス注入

標 題	かんきつの経営安定を目指し視察研修を実施		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年1月24日	場所	松山市難波 現地ハウス	
指導対象	認定農業者（8人）	連携機関		
普及指導内容	○上島町で施設かんきつを栽培する認定農業者を対象に、越年品種の主力である施設「せとか」の栽培管理における課題解決を図るため、先進地視察を企画・実施した。			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○県下トップ産地（JA えひめ中央管内）の「せとか」施設栽培園地において、着果量や樹形の違いを見学するとともに、栽培管理のポイント等について説明を受け、自園との違いや改善点を確認できたことから、今後の課題解決に向けて意欲が高まった。 ○上島町の施設かんきつを支える「せとか」「レモン」「愛媛果試第28号」のうち、生産課題の多い「せとか」の生産安定と収益性の改善を図るため引き続き支援を行う。 			

【せとか】
農研機構果樹研究センター育成（H13年登録、交配親：（清見×アンコール）×マーコット）、熟期は2月頃、外観、食味が優れ、剥皮が容易な大果の中晩柑。生産量は愛媛県が第1位。






園主の説明を傾聴








「せとか」果実





枝管理と樹形


標 題	ランンキュラスの LED 電照栽培を開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年1月12日	場所	今治市菊間町	
指導対象	花き生産者（2人）	連携機関	JA おちいまばり、花き研究指導室	
普及指導内容	<p>○花きの生産力向上のため、今治市菊間町でランンキュラスを栽培している生産者に対し、LED を用いたランンキュラスの電照栽培を指導した。</p> <p>○また、種苗コストの低減を図るため、採花後の球根を用いた栽培についてもその技術をマニュアル化し指導した。</p>			
結果と今後	<p>○LED を夜間点灯したほ場では、通常より2週間以上早く開花し、白熱球利用と比べても早期に草丈の長い花が採花できることが分かった。</p> <p>○現在、採花後の球根養成にも取り組んでおり、次年度からは電照栽培と併用することで更に採花期を早め、高単価時期から連続出荷を指導する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>夜間のLED点灯</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>電照したランンキュラス</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>作成した球根利用マニュアル</p> </div> </div>				



標 題	醸造用ぶどう栽培講習会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年1月26日	場所	今治市大三島町	
指導対象	醸造用ぶどう生産者（11人）	連携機関	大三島みんなのワイナリー	
普及指導内容	<p>○本年度3回目となる醸造用ぶどう栽培講習会を開催し、今年度取り組んだ栽培実証と防除試験の結果等を報告した。</p> <p>○また、講習会では大三島みんなのワイナリーの川田氏から、「シャルドネ」と「マスカット・ベリーA」のせん定方法等を学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○本年度の栽培実証により、光反射シートによって果実品質が向上した結果や、摘心方法の違いによって着色に影響があったこと等を説明。</p> <p>○参加者は減肥についての関心が高く、減肥試験の結果と施肥体系について意見交換を行った。</p> <p>○今年度の防除試験の結果を基に防除暦を見直すこととしており、引き続き高品質ワインの生産に向けた産地育成に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>現地実証調査の結果報告</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講師によるせん定講習</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>参加者でせん定を実習</p> </div> </div>				



標 題	いちご環境制御技術勉強会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年1月11日、25日	場 所	東温市拝志地区	
指導対象	いちご生産者(5人)	連携機関	JA松山市、JAえひめ中央	
普及指導内容	<p>○いちご高品質多収技術確立に向け、炭酸ガス濃度や温湿度をグラフ化することでハウス内環境が目標値に達しているか確認し、生産者に炭酸ガス濃度設定値やハウスの換気方法等を指導。</p> <p>○生育調査は、生産者が自ら実施するよう指導し、日々の観察の重要性を伝えた。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「日中の炭酸ガス濃度や湿度が低いことが分かったので早速改善したい」「見える化は大事だ」などの声が聞かれた。</p> <p>○今後もいちごの生産性向上のため、関係機関と連携し環境制御等の技術指導に取り組む。</p>			
<p>【環境制御技術勉強会】 環境制御技術に関心があり、地域の模範となる若手モデル農家を選抜し、モニタリング機器の設置や生育調査等により環境制御技術の習得を行う。</p>				
		ハウス内環境の説明		炭酸ガス発生機



標 題	JA 研修生の自家経営の記帳技術習得を図る		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年1月18日	場 所	JA えひめ中央伊予中央支所	
指導対象	JA 研修生 (29人)	連携機関	JA えひめ中央、JA 松山市	
普及指導内容	<p>○令和4年度又は5年度就農予定のJA研修生29人(JAえひめ中央28人、JA松山市1人)に対し、就農後自らの経営分析や税務申告に生かせるように、簿記会計研修会を10月18日から4回(1回約3時間)実施した。</p> <p>○これは、経営管理をさらに学びたいとのJA研修生の意向に対応し、管内JAと連携し、講座研修の一部を希望者のみから研修生全員を対象に発展させたもの。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、複式農業簿記による決算について、仕訳から元帳転記、決算修正と精算書作成、青色申告決算書への転記までの流れをおおむね理解した。</p> <p>○来年度以降も簿記記帳については研修プログラムに組み込み、計画的に実施する予定で、決算書の読み方や経営分析、資金運用計画等のカリキュラムの追加や、受講者の進度を合わせるような実施方法について検討している。</p>			
<p>【JA 研修生】 農業次世代人材投資事業を活用して最長2年間の就農前の研修をJAで実施し、研修後は自営就農等を予定している。</p>				
				熱心に受講する研修生



標 題	サラリーマン等向けに就農相談会		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年1月15日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	新規就農希望者（9人）	連携機関	伊予市 JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○平日は仕事で相談できないサラリーマン等を対象に、伊予市広報やHP等からの申込者に対し、就農相談会を実施。</p> <p>○相談会では、農業未経験の相談者に対しては農業大学の講座やJA研修センター研修制度での技術習得を啓発し、就農希望者に対しては各種支援制度等就農定着に向けたサポート体制を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○今回の就農希望者のうち、2組の夫婦に対して、5年度の就農に向けて支援していく。</p> <p>○今後も、農業に興味のある相談者に対し農業講座等の情報提供しながら継続した状況確認を行う。</p>			
			<p>左：夫婦と借入地主一緒に相談 右：サラリーマンの就農相談</p>	

標 題	一次産業女子が SNS の活用術を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年1月26日	場所	伊予農業指導班	
指導対象	伊予地区一次産業女子「葉れるや」（6人）	連携機関	えひめ産業振興財団	
普及指導内容	<p>○当班は、一次産業女子が SNS や Web を活用した販売戦略を習得するため、えひめ産業振興財団で女性起業家の育成や創業支援、IT の活用支援等を行っている渡部一恵氏を講師に迎え、研修会を開催。</p> <p>○5大 SNS の特徴や自社サイトとショッピングモールの違い、費用の比較など、わかりやすく説明を受けた後、各自のスマホを使って、農産物を販売するためのショップの登録方法等の実習も行った。</p>			
結果と今後	<p>○実際にショップのアプリをダウンロードし登録するところから、出品の流れまでを体験し、会員からは、「非常に参考になった」「今まで関心はあるがためらっていたので、ぜひ挑戦してみたい」などの声が聞かれた。</p> <p>○SNS は販売だけでなく、情報の発信・収集に活用できるので、今後も引き続き、こうした研修の機会を設け、個人や組織としての活用を支援していく。</p>			
			<p>SNS の研修 渡部氏の講演 スマホを操作するメンバー</p>	


標 題	久万高原農業を考える研究集会が開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年1月26日	場所	久万高原町役場大会議室	
指導対象	久万高原町農業者（32人）	連携機関	久万高原地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導内容	<p>○高齢化による担い手不足や耕作放棄地の増加、鳥獣害の増加等、久万高原地域の農業・農村が抱える様々な課題を踏まえ、生産者及び関係者が、地域農業の振興策を共に考える研究集会を開催した。（参加者総数72人）</p> <p>○砥部町で地域の文化や郷土料理の伝承活動を続ける向井京子氏の地域活性化に関する講演や、ニホンジカの生息域の拡大及びスマート農業に関する情報提供を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○地域活性化のための方策を学んで機運を盛り上げ、農業に関する最新の技術習得を図ることができた。</p> <p>○今後も地域の活性化に向けた技術支援を行う。</p>			
				<p>左：地域農業の振興策を考える 右：講演を行う向井講師</p>

標 題	雑穀を使用した郷土料理創作の撮影を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年1月24日	場所	久万高原町渋草	
指導対象	雑穀生産者（2人）	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	<p>○高齢者の生きがいがづくりや耕作放棄地対策、地域食材の伝承につなげるため、今年度から地方局予算「久万高原地域食材伝承事業」として、雑穀の生産振興を図っている。</p> <p>○調理動画をネット配信し、郷土料理の技の継承と、幅広く久万高原町の雑穀をPRするため、春先から愛媛CATVと連携し、雑穀の生育状況、調理動画の記録を行ってきた。</p> <p>○今回は、古くから使われている石臼を使用して、雑穀(地とうきび、たかきび)を挽く動画の撮影が終了したことで、一連の動画撮影は完了した。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、撮影した動画を活用し、雑穀(地とうきび、たかきび、こきび)を使用した郷土料理(はなこねり、たかきびの団子汁、雑穀餅)のYouTube等へのネット配信に向けた活動支援に取り組む。</p> <p>○また、管内の保育園・小学校の保護者を対象に、郷土料理講座を開催し、郷土料理の技の継承につなげる。</p>			
				<p>左：石臼処理のための脱粒 右：石臼による粉挽作業</p>





標 題	ピーマン収量向上に向け病害虫診断方法を講習		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年1月10日～31日	場所	久万高原町内各地	
指導対象	JA ピーマン部会員（117人）	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	<p>○ピーマン産地規模の維持に向け部会の平均収量の向上を図るため、収量の低い部会員や栽培経験の少ない部会員を対象に、病害虫診断や適期防除についての講習会を実施した。</p> <p>○当班では、ピーマン病害虫ポスターを作成・配布し、積極的な活用を呼び掛けた（作成協力機関：農林水産研究所、病害虫防除所、農産園芸課）。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、主要病害虫の診断方法を習得した。</p> <p>○今後も収量向上に向けた技術支援を図る。</p>			
				<p>左：病害虫診断の説明 右：配布した病害虫ポスター</p>


標 題	ふるさと保全計画（久万高原町直瀬・大寄地区）策定に向けて		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年1月24日	場所	直瀬住民センター	
指導対象（参集者）	久万高原町直瀬大寄地区農業者（10人）、関係機関（11人）	連携機関	久万高原町、JA 松山市 中予地方局農村整備第一課	
普及指導内容	<p>○「ふるさと保全計画第2回現地説明会」において、基幹的農業者の高齢化と減少等の実状、担い手の確保並びに農地集積の必要性について啓発指導した。</p>			
結果と今後	<p>○当日、地区内にある4つの水利組合から委員を選出し「大寄地区ふるさと保全計画検討委員会」が発足（代表者：大野育男）、今後、地区内での営農活動をはじめとする諸課題を検討していくこととなった。</p> <p>○2月上旬に農地所有者を対象とした営農に関するアンケート調査を行うとともに、ほ場の基盤並びに環境等の点検を目的としたワークショップが実施（2月18日）されることとなったため、今後も連携し支援する。</p>			
				<p>左：担い手確保対策を説明 右：実行委員会の発足と今後の活動を検討</p>



標 題	「甘平」実証ほの収穫等を実施		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年1月10日～26日	場所	松山市、伊予市、砥部町	
指導対象	「甘平」生産者（11人）	連携機関	中予地方局地域農業育成室 JA えひめ中央、JA 松山市	
普及指導内容	<p>○「甘平」の連年安定生産技術の確立を目指し、JA 指導員等と連携して裂果対策及び隔年結果対策実証ほ（計11ヶ所）の収量調査及び果実分析等を実施した。</p> <p>○当日は、各処理3樹の階級別収量及び収穫果数を計測後、果実分析を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○裂果対策実証ほ（露地9園地）の平均収量は21.5kg/樹で、階級は3Lが中心であった。土壌水分計を活用したかん水管理等により収量の安定が図れたが、一部で糖酸が低下する傾向も見られ、引き続き土壌水分と品質等との関係について調査する。</p> <p>○隔年結果対策実証ほ（施設2園地）の平均収量は35.3kg/樹で、階級は3～4Lが中心であった。施設栽培では、大枝別交互結実法による連年安定生産の目途が立ち、隔年結果の是正を図ることができたが、今後は、露地での導入について検討する。</p> <p>○現在調査中のデータを取りまとめ、「栽培改善事例集」を作成するとともに、関係機関及び農家への周知、次年度の試験計画について検討を進める。</p>			
 <p>左：大枝別交互結実法 中央：階級別収量及び果数を調査 右：果実分析で糖酸を確認</p>				


標 題	「さくらひめ」鉢物の3～4月出荷に向け、生育は順調		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年11月1日～令和5年1月	場所	管内生産者ほ場	
指導対象	「さくらひめ」鉢物生産者（13人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○11月から実施していたInstagramによる産地情報の発信及び第2回キャンペーンが1月15日に終了。「さくらひめ」の魅力が伝わる写真の投稿者の中から抽選で7人に「さくらひめオリジナル鉢カバー」をプレゼントした。</p> <p>○3月出荷に向けた実証ほ等の個別巡回を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○Instagramフォロワー数が273人に増加（第1回より88人増）、第2回投稿数70件。</p> <p>○購入者からは「可憐さに惹かれて購入した」「冬越しできるように育てたい」「初めて見た。育て方を知りたい」など多くのコメントが寄せられた。</p> <p>○3月出荷に向けた実証では、1月までに摘心がほぼ終了し、生育は順調。県外市場や販売店等からは3～4月出荷への注文や問い合わせが多数寄せられている。</p> <p>○3月に連絡会議を開催し、今年度事業実績の検討や意見交換等を行う。</p>			
 <p>左：摘心直後のさくらひめ（12月） 右：3月出荷に向けて順調に生育中</p>				



標 題	広見川の景観を守る「自然環境米」の販売開始		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年12月27日～、 令和5年1月2日～	場所	宇和島市、鬼北町	
指導対象	水稻農家	連携 機関	JA えひめ南	
普及指導 内容	<p>○広見川における農業濁水軽減対策の一環として、当室が中心となり、水田代かき時の石こう資材施用試験に取り組み、水質改善に一定の効果が確認できたことから、「広見川等農業排水対策協議会」（構成員：関係市町、JA、県地方局他）では、本方法で生産した米を「自然環境米」として試験販売を開始した。</p> <p>○宇和島市三間町と鬼北町で2戸の農家が生産した約1,400kg分については、それぞれ「三間のせせらぎ」、「鬼北のせせらぎ」の名称で、12月27日から管内の道の駅やスーパー等で販売。初日には報道機関の取材もあり、農家が環境への取組みをPRした。</p>			
結果と今後	<p>○1月には宇和島市観光情報センター「シロシタ」での取り扱いも始まり、訪れた県外の観光客が「環境に優しい米づくりを応援したい」として購入する姿が見られた。</p> <p>○今後、米の販売状況や消費者の動向を把握し、濁水軽減米の生産拡大を進めることにしており、四万十川流域である高知県とも連携し、環境に配慮したおいしい米を情報発信する。</p>			
		<p>左：試験販売に協力いただいた農家 （左）有田さん（右）渡辺さん</p>		
		<p>右：販売用米袋</p>		



標 題	加工用びわ園の安定生産を目指し排水改善		機関名	南予地方局地域農業育成室	
年月日	令和5年1月10日	場所	宇和島市三浦		
指導対象	加工用びわ生産者	連携 機関	宇和島市役所、JA えひめ南		
普及指導 内容	<p>○宇和島市三浦地区では、平成26年から加工用びわ栽培に取り組んでおり、生育が良好な箇所では成園並の収量が得られるようになったが、水田転換園のため、一部箇所では排水不良に伴う生育不良が見られ、安定生産ができていない状況にある。</p> <p>○このため当室では地方局予算「高級菓子用くだもの産地確立事業」を活用して、排水改善に向けた講習会を開催し、最も地下水位が高かった園地中央に深さ80cmの明きよを1本、その左右に深さ40cmの明きよを4本設置する排水対策を実施した。</p>				
結果と今後	<p>○降雨後の調査で、設置した明きよからスムーズに排水されていることを確認した。</p> <p>○バックホーがあれば簡単に作業が可能で、効果が持続する安価な技術であり、生産者からも期待されていることから、引き続き効果を検証しながら本技術を確立する。</p>				
					
定植3年目(H28)		一部生育不良(R5)		排水改善講習会	
					
				明きよ完成(R5.1.10)	



標 題	花粉用キウイフルーツの剪定講習会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年1月6日	場所	松野町モデル園	
指導対象	モデル農家3戸	連携機関	果樹研究センター、松野町	
普及指導内容	<p>○松野町で取り組んでいる「キウイフルーツ花粉ビジネス事業」において、来年の花 粉生産に重要となるせん定講習会を開催した。</p> <p>○キウイフルーツ雄木は、雄花が着く一年生枝が弱いと、花粉が少ない小さな花しか 着生しないため、充実した枝を棚面全体に配置するよう指導した。</p> <p>○昨年度はビニールを周年被覆していたため、休眠が早く明け、その後の寒波による 凍害を受けたハウスもあったことから、今年度は冬季にビニール被覆を行わないこ とで、凍害のリスク回避を図っている。</p>			
結果と今後	○引き続き関係機関と連携し、早期成園化と花粉の生産拡大を進め、生産者の経営安 定に向け支援する。			
 <p>花粉用キウイフルーツのせん定講習会</p>				



標 題	南予地域の若手職員によるオリジナル研修会 「にゃんよアグリ塾」を開催！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年1月27日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	南予地域の若手農業職員 24人	連携機関		
普及指導内容	<p>○南予地域に配属された若手職員の普及指導活動に必要な技術力、企画提案力、情報発 信力などの資質向上や若手職員間のネットワークを広げることを目的に、昨年度から 「にゃんよアグリ塾」を実施しており、今年度2回目の研修を当指導班で行った。</p> <p>○室内研修では、栗の系統適応性試験やスマート農業にかかる普及活動の紹介のほか、 各地域で推進したい品目について普及手法の一つである SWOT 分析を用いたグルー プワークの結果報告について、現場研修では、実証ほ場においてぶどうや桃、栗のせん 定実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○研修は若手職員が主体となって運営を行い、企画・提案力の向上につながった。また、 ベテラン職員による講習を通じ、落葉果樹のせん定技術を習得した。</p> <p>○本研修は、南予管内の普及機関が持ち回りで開催しており、次年度も2回の研修を実 施する計画である。</p>			
  <p>左：アシストスーツの事例紹介 右：ぶどうのせん定実習</p>				


標 題	南宇和高校生が「河内晩柑」のプロジェクト研究 成果を報告		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年1月27日	場所	県立南宇和高等学校	
指導対象	南宇和高校1、2年生(21人)	連携 機関	産地戦略推進室	
普及指導 内容	<p>○同校のプロジェクト活動「総合的な探究の時間」で、今年度「河内晩柑の軽労働化」をテーマに活動しているグループに対し、当指導班は外部講師として指導・助言を行ってきた。</p> <p>○同グループは校内の農林水産部門発表会において、「河内晩柑の収穫効率の良い樹と園地」について成果報告を行った。通路が確保されている「独立樹園」では収穫しやすく作業効率が良いのに対し、樹が重なって下枝のない「密植園」では作業性が劣り、これらはドローン撮影によって効率よく見分けることが可能との説明を行った。</p>			
結果と今後	<p>○出席した生徒からは、「密植園は収穫効率が悪いということが写真やデータから良く分かった」との感想があった。</p> <p>○生徒の投票で選ばれたチームは2月16日に行われる校内全体発表会で報告する予定。</p>			
			プロジェクト研究の成果を報告する生徒	



標 題	米粉を活用したパンづくりに挑戦		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年1月20日	場所	砥部町	
指導対象	愛南生活研究協議会(7人)	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○小麦価格が高騰している中、地元産の米粉の活用を考えている愛南町の女性グループでは、昨年8月にパンの試作を行ったところ、膨らみが足りずうまくいかなかったことから、当班では砥部町の米粉パン教室における研修を企画し、会員の技術習得を支援した。</p> <p>○教室では、パン用の微細粒米粉を使用することで十分に膨らんだパンに仕上がりに、食パンやウインナーパン、ピザなど5種類を試作。会員は「想像していたよりも簡単にできた」とパン用米粉の特性の違いを実感した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、地元産米の米粉を使ったパンの製造・販売に向け、微細粒米粉の製粉方法や加工方法等について検討を進め、オリジナル米粉パンの商品化や、グリーン・ツーリズムにおける体験メニューにつなげることとしている。</p>			
				
			<p>左：作り方の説明 右：試作した米粉パン</p>	


標 題	高校生に河内晩柑の加工品づくりを指導		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年1月13日	場所	愛南町	
指導対象	南宇和高校生（8人）	連携機関	県立南宇和高校	
普及指導内容	<p>○同校が取り組む「愛南町未来づくりプロジェクト」では、地元特産の河内晩柑を若い世代へPRするため、若年層向け加工品を検討しており、当室職員が講師となってスイーツ等の試作を実施した。</p> <p>○今回の試作は「オムレット」で、マーマレードと酸味の強い果肉を使用。なお、果肉以外を有効活用するため、「バスボム（入浴剤）」づくりにもチャレンジ。香りを出すため果皮を乾燥させた粉末を練りこんだほか、果汁も使用するなど工夫した複数タイプを作製した。</p>			
結果と今後	<p>○オムレットを試食した生徒らは「甘いスポンジと河内晩柑の爽やかな酸味がとてもよくあっている」「販売されていたら購入したい」といった感想を述べていた。</p> <p>○3月に校内発表会での披露を予定しており、さらなるブラッシュアップと特産品PR商品の実現化に向けた支援を行っていく。</p>			
				<p>左：スイーツ試作する生徒 右：河内晩柑オムレット</p>

標 題	道の駅みまで「寒じめ あまおとめ」を販売		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年1月14日	場所	道の駅みま	
指導対象	産直市出荷農家（1戸）	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○新規品目導入で産直市活性化を図る第2弾「寒じめ あまおとめ」の初出荷。</p> <p>○「寒じめ」の特長である甘さをアピールするため試食によるPRを実施、POP設置とともに甘くなる理由や珍しさを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○当日はあいにくの曇雨天で来場者が少ない状況のなか、試食した50人以上から「いつものいちごと比べて、とても甘い」との高評価を得て、2倍以上の高価格設定にもかかわらず用意した10パックは完売した。今年度は1戸のみの取組みで、少ない出荷量が課題であることから次作での取組農家増加を働きかける。</p> <p>○こだわり農産物第3弾には「早出しスイートコーン」を提案しており、2戸の試作農家と栽培計画について具体的検討を行っている。</p> <p>○また、2月には道の駅みま出荷者全員を対象とした夏秋野菜栽培講習会を計画しており、品目のさらなる多様化と出荷量の増加を図り、同駅産直市の魅力向上につなげる。</p>			
				<p>左：試食する人へ特長をPR 右：特設販売スペース</p>



標 題	収穫アルバイトの受入体制が充実		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年1月6日～	場所	伊方町三崎（旧三崎保育所）	
指導対象	三崎雇用促進協議会員等（3人）	連携機関	伊方町	
普及指導内容	<p>○かんきつ収穫時期の重要な労働力となるアルバイトを確保するため、管内の雇用促進協議会などに、宿泊施設などのアルバイト受入体制の整備を啓発してきた。</p> <p>○また、八幡浜地区で温州みかんの収穫を終えたアルバイトに対し、2月から行われる三崎地区での晩柑収穫への誘導を行っている。</p>			
結果と今後	<p>○三崎地区では、保育園跡を活用した女性専用の宿泊施設が完成し、現在、定員の10人が宿泊しており、3月下旬まで収穫作業に従事する。</p> <p>○今季三崎地区のアルバイトは、八幡浜地区からの5人を含む17人が確保され、昨年と比べ増加した。</p> <p>○今後も増加が見込まれることから、当室では地域の生産者やJAと連携しながら、アルバイト受入体制の整備や働きやすい労働環境づくりを支援し、労働力確保につなげていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：三崎地区の宿泊施設を利用する アルバイト</p> <p>右：完備された個室</p> </div> </div>				



標 題	AI 選果機を管内初導入・セミナーも企画		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年1月13日	場所	伊方町 田縁農園	
指導対象	田縁農園、管内生産者	連携機関	(株) NP システム開発	
普及指導内容	<p>○西宇和スマート農業推進協議会では、AI 選果機等スマート農業の普及啓発及び現地実装に向けた取組みを行っている。</p> <p>○伊方町田縁農園（代表田縁藤治）が、管内で初めてAI 選果機を導入したため、設置状況を確認し、また、ハウス栽培の「不知火」果実を使用して初選果を行った。</p>			
結果と今後	<p>○当協議会では、現地での導入事例をPRするため、2月13日に「AI 選果機セミナー」を開催する計画である。</p> <p>○今後もAI 選果機の実用性等を検討しながら、普及啓発を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">AI 選果機による「不知火」の選果作業（田縁農園）</p>				



標 題	首都圏での就農相談及び「東大みかん愛好会」との活動協議		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年1月14日	場所	東京国際フォーラム 東京都立産業貿易センター台東館	
指導対象	八西地区青年農業者連絡協議会員	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○新規就農者の確保のため、東京国際フォーラムで開催された、新・農業人フェアに地区青年農業者協議会員と参加し、相談者に対し就農に係る支援内容を説明するとともに、生産者からの声を直接届けた。</p> <p>○併せて、青年の組織活動や収穫期の労働力不足の課題解決のため、首都圏の大学生で構成される「東大みかん愛好会」に同協議会との連携を協議した。</p>			
結果と今後	<p>○今回の就農相談者は10人。相談者の悩みや意向について、生産者の立場から助言し、西宇和地域を知ってもらうことが出来た。また、農業体験や研修制度に興味を持った相談者には、西宇和みかん支援隊WEBサイトやパンフレットを紹介した。</p> <p>○愛好会との協議では、八幡浜でのアルバイト等による産地訪問の提案を行ったほか、首都圏で開催している出前授業が効果的な内容となるよう、今後も協議して連携を深めることとなった。</p>			
			<p>左: 就農相談でアドバイス 右: 「東大みかん愛好会」との活動協議</p>	

標 題	新規就農者の経営安定に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年1月19日～1月31日	場所	新規就農者園地	
指導対象	新規就農者（27人）	連携機関	八幡浜市、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」の一環として、新規就農者の定着と経営の早期安定を目指した重点指導を、関係機関と連携し、八幡浜市の新規就農者（次世代人材投資事業受給者）を対象に実施した。</p> <p>○園地巡回指導では、新規就農者の営農状況や収量等の聞き取りの他、補助事業の活用等の助言を行った。</p>			
結果と今後	<p>○新規就農者は、資材等の高騰による収益悪化を懸念していたため、土壌分析による適正な施肥管理や病害虫対策等の指導を行い、不安の解消に努めた。</p> <p>○今後、重点指導対象者への濃密指導の他、売り上げ1千万円を実現するための経営モデルの提案やマルドリ等先進技術の実証結果の普及などにより、儲かる農業の実現を目指す。</p>			
	<p></p> <p>新規就農者への園地巡回指導</p>			

標 題	一次産業女子グループの積極的な活動を支援		機関名	八幡浜地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年1月23日、27日	場所	西条市丹原町、大洲市	
指導対象	ぷらいまりい会員（5人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○一次産業女子グループ「ぷらいまりい」が積極的な活動を展開する中、他地区との交流や連携強化、主催するイベントの広報等、濃密的に活動を支援している。</p> <p>○「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」メンバーである西条市丹原町の「輝らり果樹園」と「ゆきもと農園」の視察では、お互いの取組みや経営展開などの情報交換を通し、今後の連携・交流活動も検討していくことを申し合わせた。</p> <p>○会員の園地（ビニールハウス）を会場に仕立て、初めて実施した「ぷらいまりいマルシェ」では、商品配置や接客対応などの出店方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○視察から得た情報を、自分達の活動に活かしていきたいとの向上心がうかがえた。</p> <p>○マルシェでは、会員とのつながりのある関係店舗の出展協力もあり、悪天候にも拘わらず約50人が来場し、自家農産物のPRにもつながった。</p> <p>○今後もグループの発展につながる活動の企画・運営等を支援し、地域を代表する一次産業女子グループとして育成していく。</p>			
				
他地区の一次産業女子との交流		初開催の「ぷらいまりいマルシェ」		

標 題	直売所出荷者を対象に春夏野菜の栽培と農作業安全について講習		機関名	八幡浜地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年1月31日	場所	(株)内子フレッシュパークからり	
指導対象	からり野菜出荷者（35人）	連携機関	(株)内子フレッシュパークからり (株)キセキアグリ	
普及指導内容	<p>○からりにおける春夏野菜の生産出荷量向上と農作業安全の徹底に向け、9品目の春夏野菜の栽培と農業用機械の安全使用について指導した。</p> <p>○定植時のかん水と温度管理、病害虫対策のポイントと合わせて、農作業事故の多い刈払機や小型管理機の操作と事故防止に向けた注意点の徹底を図った。</p>			
結果と今後	<p>○受講した参加者は、普段使い慣れている機械でも安全操作の再確認や適切なメンテナンスが事故の未然防止に有効であること等を学び、春からの野菜栽培に活かそうと意気込んでいた。</p> <p>○からりでは、お盆前後の夏野菜の入荷量の減少や資材高騰分の価格転嫁ができないことを懸念しており、生産販売におけるコスト低減に向けた指導を今後の講習会で行う。</p>			
				<p>左：春夏野菜の栽培のポイントを説明 右：刈払機の安全講習</p>

標 題	IPM によるいちごのハダニ対策を周知		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年1月19日、20日	場所	西予市宇和町、野村町	
指導対象	いちご生産者（16戸）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	<p>○いちごのほ場巡回指導において、ハダニ発生ほ場が多く見られたことから、発生程度による薬剤散布実施の可否について指導した。</p> <p>○特に、ハダニ天敵を放飼しているほ場では、天敵は確認できたものの、例年と比較してハダニの発生が多いところがあり、発生密度に応じた対処法を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○発生密度の高いほ場を中心に再度巡回し、ハダニの発生状況の確認と、結果に応じた対応方法について指導を行う。</p> <p>○天敵放飼生産者に対しては、薬剤選択や応急防除の可否などを生産者自身が判断できるよう、防除効果の確認方法の指導を行い、IPM が継続できるよう支援していく。</p>			
				<p>左：いちごのほ場巡回指導 右：天敵（○印）とハダニ</p>

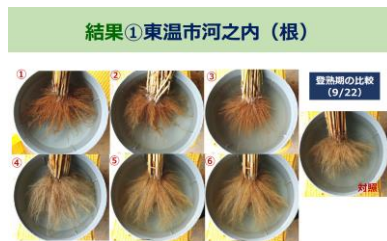
標 題	新規就農者等の経営管理能力の向上を目指して		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年1月31日	場所	西予市教育保健センター	
指導対象	新規就農者等（5人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○複式簿記記帳と青色申告の実施による経営管理を推進するため、西予市と研修会を開催。</p> <p>○当班から、収入保険制度など農業関係制度における簿記記帳のメリットについて説明するとともに、農業簿記ソフトを用いた記帳と経営管理について紹介した。また、講師の税理士からは、青色申告制度や税務上のメリットとインボイス制度等を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「令和5年分からの複式簿記記帳と青色申告を実施したい」「農業簿記ソフトを用いて経営管理をしてみたい」など積極的な声が聞かれた。</p> <p>○当班では、就農初期の農業者については重点的な記帳指導を実施する。</p>			
				<p>左：税理士による説明 右：簿記記帳のメリットを説明</p>

標 題	令和4年産「甘平」を台湾に輸出		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年1月5、7日	場所	八幡浜市、西予市	
指導対象	「甘平」輸出農家（3戸）	連携機関	JAにしうわ、ブランド戦略課	
普及指導内容	<p>○令和4年産「甘平」の台湾輸出に取り組む農家に対し、庭先選果等の栽培指導を実施した。</p> <p>○輸出用果実の出荷に関して、関係機関と連携して選果基準順守の確認と箱詰め作業を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○1月22日からの春節に向けて、4回に分け荷造りを行い、国内の業者を経由して約2.1tが輸出された。</p> <p>○今後も、海外輸出の支援を通じて、新たな販路としての定着と産地のブランド力強化を目指す。</p>			



左：輸出用果実の選果
右：箱詰め作業の目合わせ

標 題	第2回作物調査研究会を開催		機関名	高度普及推進グループ
年月日	令和5年1月20日	場所	リモート開催	
指導対象	各普及拠点作物担当者ほか（32人）	連携機関	各普及拠点、農林水産研究所、農業大学校	
普及指導内容	<p>○今年の高湿で過剰に茎数が増えやすく登熟期間が寡少であった気象条件下でも、地力に応じた基肥減肥と有機質資材やミネラル資材の組合せにより、安定して高い食味、品質が得られた令和4年度「ひめの凜」良食味米栽培実証結果を報告、協議した。</p> <p>○農林水産研究所や普及拠点の試験結果や生産状況について、情報共有があった。</p>			
結果と今後	<p>○協議の結果、次年度の高品質栽培に向けて、分けつ数に応じた中干しや収穫時の積算温度、作土深の確保等を指導ポイントにすることとなった。</p> <p>○実証結果を基に、各地域にあった食味と収量のバランスのとれた栽培手法や減肥等の指標策定を検討する。</p>			



左：オンライン上で協議
右：報告内容の一部

○①～③は糖化酵素の多い根が多い、④～⑥は全体的に白く長く細根が多い、特に④が白くて細根も多い、対照区は白いが短く手触りがこわついている

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543